

## 話し手が共通基盤を考慮するのはいつか？

When do speakers take into account common ground?

Horton, W.S. & Keysar, B. Cognition 59 (1996) 91-117

### 1. 序

発話産出には、話し手と聞き手の間の共通基盤（相互知識）の考慮という側面が含まれる。本論文ではこの点に焦点をあてる。

### 2. 指示的伝達と共通基盤

伝達communicationの大部分は指示的referentialである(i.e.受け手に特定の指示対象を同定させようとしている)。Clarkらは、指示的記述の構築を導いている原則は、特定の対照セットthe contrast setが共通基盤の一部となっているということだ、と論じている。また、話し手は *最適デザイン原理* に従う、と論じている。

*最適デザイン原理*：

話し手は受け手が相互知識(=共通基盤)に基づいて推論することを意図する。

共通基盤が指示的記述の本質に影響していることを示す研究は多い。しかし、共有基盤が発話構築のどの時点に関わっているかは明らかになっていない。本論文ではこの点を直接調べる。

### 3. 発話産出における共通基盤のモデル

#### 3.1 発話産出の諸要素

一般に、発話産出には次の2つの両方が含まれる。

- (1)発話の諸相(e.g.言語的適格性、意図の反映)についての計画
- (2)それらの計画のモニタリングとエラー訂正

以下では、発話産出における共通基盤の役割についての2つのモデルを述べ、評価する。

#### 3.2 「始発デザイン」モデル The "Initial Design" model

話し手は発話計画に *最適デザイン原理* を適用する。

- ・ 計画は共通基盤に含まれる情報だけを取り入れる。最初から受け手の視点に立ったものになっている。
- ・ モニタリングの対象は非体系的エラー(共通基盤に対して不適切な発話)のみ。

問題点：計画においてコストがかかる。

#### 3.3 「モニタリング・調整」モデル The "Monitoring and Adjustment" model

- ・ 話し手は自分が利用できる情報を使って発話を計画する。
- ・ 計画は、共有されていない情報に依存したり、共通基盤を十分利用していなかったりする。
- ・ モニタリングにおいて、計画は共通基盤にあわせて調節される。

#### 3.4 モデルの予測上の違い

始発の計画が共通基盤に依存する / しない。

情報が共通基盤に含まれるかどうかを、始発の計画が区別する / しない。

### 4. 実験パラダイムと一般的予測

指示的伝達課題の修正版を用い、話し手が利用している対照セットを評価するために、指示対象についての記述句のなかの形容詞の種類を調べる[Fig.1-3.]。

context	1st presentation		2nd presentation (contrastが変わる)	
	shared	priviledged	shared	priviledged
始発デザイン	``small"多	``small"少	``large"になる	``large"にならない
モニタリング・調整	``small"	``large"になる	``large"にならない*	
共通基盤を使用せず	``small"		(``large"になるorならない)	

\* time pressure下では``large"になる

## 5.方法

被験者 24人

刺激 1) 実験項目 16 sets. うち9 sets (bidirectional sets)について分析。  
1 set = 3 objects(moving, bigger, smaller) 例) 動く灰色星, 黒星, 白星  
2) フィラー 24 sets. 1 set =お互いに無関係な 3 objects.

うち20 sets でmoving obj. が途中で別のものに変化してしまう[Fig.4.]。

課題 話し手はなにが動いていったかを聞き手(サクラ)に伝える。

聞き手はそれが途中で変わってしまったかどうかを判断する。

デザイン 2 context (Ss間) × 2 speed (Ss間) × 2 presentation (Ss内)

context条件...聞き手はcontextを{みていない/話し手と共有している}

speed条件...話し手は記述を{speeded / unspeeded}される

presentation条件... { 1st / 2nd }

## 6.結果

「モニタリング・調整」モデルを支持。

発話プロトコル中に出現する形容詞を分類[Table 1.] , context-relatedの比率を算出。

2nd presentationで, speededではcontext間で同程度にcontext-related [Fig. 5.]。

記述名詞句発話の潜時

speededによる加速はpriviledgedで大; unspeededではpriviledgedで遅。

## 7.議論

この研究では, time pressureは計画には影響せずモニタリングに影響する, と想定している。その理由は, 1) 計画は初期段階で素速くおわってしまうとおもわれるから。2)モニタリングは利用可能な資源により依存しているとおもわれるから。

発話産出が「モニタリング・調整」モデルに従っているのはなぜか? おそらく, 共通基盤は比較的に高次な知識なので, 計画に取り込むのは不経済だからだろう。また, 計画に取り込まなくても, モニタリングにおける訂正は結局不要な場合が多い。

Dell & Brown (1991) は, ``generic"な知識(instrumentの典型性)に関して, 「聞き手モデル」が用いられないことを示したが, ``specific"な知識に関しては用いるかもしれないと考察している。しかし, 本実験でのcontrast context はspecificであり, この場合にも「聞き手モデル」が用いられないことを示した。

本実験では聞き手のフィードバックがないので, 共通基盤の利用を過大評価さえしているかもしれない。

本実験は物理的共存在による共通基盤を用いたものであり, その一般化可能性は今後の課題である(e.g.言語的共存在, 共同体成員性)。

## 8.結論 略

(終)